

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

事業所名 グループホームわかば

日付 平成16年10月18日

特定非営利活動法人

評価機関名 高齢者と痴呆の人のケアを大切にす会

LIFE SUPPORT推進グループ

評価調査員 在宅介護経験8年

評価調査員 在宅介護経験8年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る (改善状況のコメントがあります！)

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

これからの高齢者を支える地域の小規模・多機能サービスの拠点として、介護予防のデイケアと、痴呆高齢者が安心して暮らせるグループホーム、総合的に高齢者を含めた町民の健康をバックアップする病院が一体化し、しかも各々が役割をきっちりと分担して機能している理想の姿を見て貰った。

4つのグループホームのケアの基本条件や職員育成を担当している総括管理者的役割を備えた方が、一番新しいこのグループホームの管理者であり、職員と一緒に勤務体系に入ってケアの向上に努めている。

管理者はグループホームのサービス向上のため、院長(事業者)と対等に協議交渉して着実に実現していき、事業者からも信用され、職員は勿論、利用者や家族からも信頼されて、高齢者が心身共に現状より少しでも良い状態に回復して貰いたいと「日々一粒の砂を積み上げていくような思いとケアの実践」に情熱を傾注し続けている。

「自分の親が入って良かった」と言えるグループホームにしたい考えは、私達の機関の理想でもある。現在は発展途上にあるが、地域の「医療と福祉のあり方」を見事に調和させ、サービスの質の確保と向上に努力しているグループホームである。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

立ち上がって約9ヶ月、管理者の情熱と指導力で日々成長してきた職員であるが、次の段階として、各職員が管理者に近づき各々が「個の魅力」を発揮して全体の「元気・勢い」を期待したい。

自然の「空気・光・色」「植物や動物の生命」に関わり難い生活空間と環境にある。現状ではすぐに改善でき難いことであるが、今の条件下で自然に接しやすいチャンスを日頃のケアの中で、事業者、管理者共に考えて改善に努力して貰いたい。

居室やリビングルーム、廊下に利用者の過去、現在を伺い知ることが出来るものを展示して、利用者と家族、来訪者が話題に出来たり、イメージを膨らませる環境づくりを考えて欲しい。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	「休む間なしに色々頼んでしまうわいなあ」の職員の声に「いやあ、自分にさせて貰うことがあるというのは有難いことじゃー」、食事の準備、片付けから洗濯物の世話まで忙しく動きまわる人も居れば「私はもう何もやりとうえんじゃー、食べることだけが楽しみじゃ」と言って座っている人もよし、利用者の意志と能力を尊重した気ままな生活である。「夕食介助お願い出来ないかしら?」「入浴介助一緒にして貰えない?」と家族の人に声をかけ、家族の遠慮バリアを取り除いて協力して貰っている。「自分の親だものね」とは調査員の心。利用者と管理者、職員、家族が一体となってケアしている。重度の痴呆や持病がある人や軽度の人で、個人差が著しいが、この環境の中でバランスの良い暮らしを保っているのは、職員同士の息の合ったケアが成せる業と思う。		

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	痴呆の人や寝たきりの人とその家族の気持ちや苦勞を、自分自身の体験もあって理解しているので、心身の状態如何に拘らず、少しでも良くしてあげようという救世主である。どんな人でも、気持ちが少しでも通じ合ったら、苦勞も吹き飛んでしまうと言う。「病人としてでなく、普通の人として良いケアを目指そう」という事業者、管理者が一丸となって努力していることが、このグループホームを支えている。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	利用者は、それぞれの方法で自分なりの表現をしている。一人ひとりの欲求をいち早く察知して、その気持ちに寄り添ってくれる職員の気配りとケアの技術が、ここの生活を精神的に安定させている。利用者の楽しそうな声が聞こえたり、自分の部屋で寂しくなったら気軽にリビングルームに行っておくという気ままな生活が出来る空間があり、見守ってくれる職員が居てくれるので、私達もここの生活の居心地さに共感した。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	歯科を含めた医療機関に併設されたグループホームであり、3つのグループホームとデイケアが同一地域内にある。そして管理者・職員が痴呆ケアに情熱と向上心を注いでいる上に、これらの機能がもっと協力し、交流し合える体制が進んでいき、更にはこの地域の各機関や行政が連携してくれる環境が整えば、すばらしい地域づくりに貢献出来るだろうと期待が高まった。自らのグループホームのサービスの質の向上に更に努力され、情熱のある管理者のリーダーシップと理解ある事業者の支援によって、今後は地域のリーダーとしてコミュニケーションづくりを生活化させて貰いたい。家族の参加も積極的に求め、グループホームをより知って頂くために「たより」をつくられ、家族はじめ病院の待合室等でも見れるように、そして町民や近隣の人にも多く情報提供する姿勢を示して貰いたい。		